

畜産技術専門家 掛川庸夫先生の逝去を悼む

牧野 史敬

㈱オービケン代表取締役・畜産技術専門家である掛川庸夫先生は、2010年10月22日、心疾患のため、77歳をもって逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を捧げ、中国黒龍江省ほか各地で称賛される成果を上げられましたことをお伝えします。

1993年、ハルビン市方正地区支援交流の会（本会「方正友好交流の会」の前身）は、日本とゆかりと絆の深い方正県に対し、さまざまな支援を行うべく結成され、日本政府からの開発援助（ODA）を斡旋いたしました。

方正地区とはハルビン市東方5県を包括し、方正県は農業の現代化のため、ODAに対し、その補完事業を多角的に斡旋・推進を企図していました。

そこで白羽の矢が立てられたのが掛川先生でした。掛川先生は、長野県中野市在住で、発酵飼料による畜産技術者として快よく応諾され、1995年、敗戦50年を記念して中野市市議会議員長の岩本氏を同道し方正県を訪問、日本人公墓参拝、技術の開陳・指導に立ち上がることとなりました。

手始めに1996年、ハルビン市とは至近距離にある阿城市畜産局とタイアップして、養豚飼育において中国の在来法とタイ国企業の飼料と掛川法との3種による1日の増体重、肉質の比較試験を3か月実施した結果、掛川法が断然優位となりました。これが黒竜江日報など中国マスメディアに報道され、(財)日本シルバーボランティアーズ（JSV=JICAの外郭団体）に対し、西安市、済南市、密山県などから掛川先生の派遣要請が相次ぎました。

1997年、阿城市市長・冠振華氏ほか畜産局長ら一行が中野市を訪問、視察と対話を深められました。1998年、長野オリンピック開催にあたって、黒龍江省科学技術委員会常務副主任（後、省科学技術庁庁長）董瑞麟氏と李凡氏（科学技術庁国際部長）が長野市、中野市を訪問、視察と交流を重ねられました。一方、掛川先生の発酵原菌の保護ということで綿貫中野市長が国際特許事務所を所有されており、中国国家専利局（日本の特許庁に当たる）に「神農素」として申請し認可を受けました。

こうした経過を辿って省科技委の保護を受け、省内各地で掛川法の技術が生かされていることを報告し、追悼の言葉といたします。

（まきの・ふみたか：元・ハルビン市方正地区支援交流の会専務理事・事務局長）



<石井貫一氏の友誼賞受賞祝賀会で。女性歌手の左から石井、牧野、掛川、森山誠之氏>